

2020 年度業務実績報告書

提出日 2021 年 1 月 20 日

1. 職名・氏名 准教授・加藤まどか

2. 学位 学位 修士、専門分野 社会学、授与機関 東京大学、授与年 1994 年 3 月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 現代家族論（2 単位） 1・2・3 年生
②内容・ねらい	現代日本の家族の変化を、歴史的な流れにおいてとらえ、また諸外国での家族の変化の動向のなかでとらえる。家族が変化するなかで、子育てや高齢者介護においてどのような問題が生じているのか解説する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫	遠隔での授業を、LMS に資料の PDF と音声ファイルを掲載して実施した。資料には空欄を設け、受講者が音声ファイルを聞きながら、空欄に重要な語句を書き込めるようにし、一方的に聞くだけの受講にならないように心がけた。また資料には、グラフや表、画像や新聞記事など、多様な内容をもりこみ、受講者が関心をもてるように工夫した。資料は、文字やグラフを大きく濃く印刷したものをスキャンして作成し、スマホの画面でも見やすいように配慮した。 授業の受講後には、受講者全員への課題として、授業内容への意見・感想・質問等を、毎回、LMS に投稿してもらい、次の授業時には、課題に対する教員からのコメントを音声ファイルで配信した。また質問に対してはメールでも対応し、遠隔であっても、双方向のやり取りができるように工夫した。 期末試験については、授業期間中に短いレポートを 4 回提出してもらい、その合計で評価することとし、スマホでレポートを作成する場合でも、過大な負担にならないように配慮した。
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 ジェンダー論（2 単位） 1・2・3 年生
②内容・ねらい	家庭や学校、職場や地域において、性別にもとづいた秩序がどのように形成され、現在どのような形で存在しているのかについて説明する。性別にもとづいた秩序がどのように維持されているのか、またそれを変えていこうとする試みについて紹介する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫	遠隔での授業を、LMS に資料の PDF と音声ファイルを掲載して実施した。資料には空欄を設け、受講者が音声ファイルを聞きながら、空欄に重要な語句を書き込めるようにし、一方的に聞くだけの受講にならないように心がけた。また資料には、グラフや表、画像や新聞記事など、多様な内容をもりこみ、受講者が関心をもてるように工夫した。資料は、文字やグラフを大きく濃く印刷したものをスキャンして作成し、スマホの画面でも見やすいように配慮した。 授業の受講後には、受講者全員への課題として、授業内容への意見・感想・質問等を、毎回、LMS に投稿してもらい、次の授業時には、課題に対する教員からのコメントを音声ファイルで配信した。また質問に対してはメールでも対応し、遠隔であっても、双方向のやり取りができるように工夫した。 期末試験については、授業期間中に短いレポートを 4 回提出してもらい、その合計で評価することとし、スマホでレポートを作成する場合でも、過大な負担にならないように配慮した。
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 導入ゼミ（1 単位） 1 年生

②内容・ねらい

子どもの放課後をめぐる状況、学童保育や児童館の現状と課題、国や地方自治体の放課後施策について理解を深める。テーマの設定の仕方、資料の集め方、報告のやり方、ディスカッションのやり方、レポートの書き方などの基本事項を学ぶ。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

Zoom と LMS を併用して授業を実施した。授業開始時には 3 週間かけて、1 年生に向けて、生活面で不安な点、遠隔授業の受講のやり方や注意点、時間割の作成、履修登録の方法など、丁寧なガイダンスを実施した。受講者全員の時間割を確認し、履修登録のやり方について繰り返し説明し、メールでの質問も受けることで、遠隔であっても大学での学びを円滑に開始できるように配慮した。

4 回目以降のゼミでは、他の授業での課題が多すぎるとの指摘から、通常よりも課題の量を減らしたが、レポートの作成手順について理解できるように、丁寧な説明を行った。また新入生同士が言葉を交わす機会が少ないことから、授業時間内に 3～4 人ずつに分けたブレイクアウトセッションの時間を取り、お互いに話す機会をもてるように配慮した。

学期の最後には、受講者が各自のテーマの報告を Zoom で行ったが、PDF の作成や画面共有のやり方などを事前に伝え、スムーズに全員の報告を実施することができた。

パソコン等の環境から、受講者が通常の字数の期末レポートを書くのは難しい状況だったが、要約版の期末レポートとすることで、通常よりは字数を減らしつつ、レポートの構成を理解した上で、自分のテーマについてレポート（要約版）をまとめることができるように配慮した。

遠隔授業の環境への心配から、最初に受講者全員の連絡先や通信環境などを確認した上で授業を開始したが、特に問題なく、学期の最後まで、毎回ほぼ全員出席の状態で授業を進めることができた。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
社会学（2 単位） 1・2・3 年生

②内容・ねらい

社会学の歴史を学び、初期の社会学者たちが「社会」をとらえようとした視点について学ぶ。現代日本社会において、生まれ、学び、働き、暮らすというライフコースの過程でかわる可能性がある様々な問題を取り上げ、その背景について解説する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

今年度後期は、遠隔授業と対面授業とが、交互に切り替わって実施されることとなった。遠隔授業では、LMS に資料の PDF と音声ファイルとを掲載し、遠隔でも理解しやすい授業になるように心がけた。また授業の受講後には、受講者全員への課題として、授業内容への意見・感想・質問等を、毎回、LMS に投稿してもらい、次の授業時には、課題に対する教員からのコメントを音声ファイルで配信した。

対面授業では、資料を配布した上で、スクリーンにグラフを映して説明したり、DVD を視聴したりするなど、対面授業での利点を生かして、受講者の関心を高められるように取り組んだ。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
教養ゼミ（1 単位） 1 年生

②内容・ねらい

子どもの放課後をめぐる状況、学童保育や児童館の現状と課題、国や地方自治体の放課後施策について理解を深める。自分の関心のあるテーマについて、資料を集め、文献を読み、考察し報告する方法について学ぶ。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

今年度後期は、遠隔授業と対面授業とが、交互に切り替わって実施されることとなった。授業では LMS を使用し、資料の PDF などを LMS 上で提示した。遠隔授業の際には、Zoom を使用したが、解説をする際には、資料の PDF を分かりやすく作成し、画像をスキャンした資料を画面共有で見せるなど、受講者の関心を高められるようにした。

対面授業の教室は、ホワイトボードに向かって全員前向きで座るように席が配置され、席を離してマスクを着用するという制約はあったが、受講者の発言の機会を、出来るだけ多く作るように配慮した。それぞれのテーマについて取り上げる回には、各自が選んだ文献やネット上の資料のコピーを全員に配布し、資料にもとづいて議論ができるように心がけた。

受講者それぞれのテーマの報告については、大半が遠隔での Zoom を使用した報告となった。各自が PDF の資料を作成し、Zoom の画面を共有して報告し、全員で意見を出し合い、授業終了後に LMS で各報告へのコメントを投稿するというやり方で実施し、遠隔でも受講者同士、お互いの意見が聞けるように工夫した。

パソコン等の環境から、受講者が通常の字数の期末レポートを書くのは難しい状況であるが、要約版の期末レポートとすることで、通常よりは字数を減らしつつ、レポートの構成を理解した上で、自分のテーマについてレポート（要約版）をまとめることができるように配慮した。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
学術ゼミ A （2 単位） 2・3・4 年生

②内容・ねらい

今日の子どもをとりまく環境について理解し、子どもの発達、遊びや仲間の意味、放課後児童クラブの意義等について学び、子どもの育ちにおける地域コミュニティの重要性について理解を深める。テーマにかかわる社会学の重要な概念について基礎的な知識を得る。自分の関心のあるテーマを選んで報告・レポートにまとめていくやり方について学ぶ。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

今年度後期は、遠隔授業と対面授業とが、交互に切り替わって実施されることとなった。授業では LMS を使用し、資料の PDF などを LMS 上で提示した。

前半の遠隔授業では、Zoom を使い、画面共有で資料を提示しながら解説を行った。画像の資料なども多く取り入れ、受講者の関心を高められるように工夫した。

対面授業では、DVD を視聴したり、市町の HP に掲載された資料や動画をネット上で視聴したりするなど、対面授業での利点を生かして、受講者の関心を高められるように取り組んだ。

受講者が選んだ文献を取り上げた回の授業では、著者の分析の背景を丁寧に読み取って議論をすることができた。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
学術ゼミ B （2 単位） 2・3・4 年生

②内容・ねらい

今日の子どもをとりまく環境について理解し、子どもの発達、遊びや仲間の意味、放課後児童クラブの意義等について学び、子どもの育ちにおける地域コミュニティの重要性について理解を深める。テーマにかかわる社会学の重要な概念について基礎的な知識を得る。自分の関心のあるテーマを選んで報告・レポートにまとめていくやり方について学ぶ。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

今年度後期は、遠隔授業と対面授業とが、交互に切り替わって実施されることとなった。授業では LMS を使用し、資料の PDF などを LMS 上で提示した。

前半の遠隔授業では、Zoom を使い、画面共有で資料を提示しながら解説を行った。画像の資料なども多く取り入れ、受講者の関心を高められるように工夫した。

対面授業では、DVD を視聴したり、市町の HP に掲載された資料や動画をネット上で視聴したりするなど、対面授業での利点を生かして、受講者の関心を高められるように取り組んだ。

受講者数が少なかったため、それぞれが関心のあるテーマについて、時間をかけて取り上げることができた。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
現代人権論（オムニバス）（2 単位） 1・2・3 年生

②内容・ねらい

オムニバスの授業だが、昨年度まで、この科目の取りまとめ役をしていたため、第 1 回「全

体の概要」の回を担当した。前半では、GC での課題の提出方法や、対面授業・遠隔授業での注意点、授業の概要、評価方法などを説明した。後半では、人権の歴史や特質、世界人権宣言等の説明をし、人権にかかわる基本的な内容について解説を行った。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

GC に資料を掲載し、Zoom で資料の PDF を画面共有して授業を実施した。前半のガイダンスでは、授業の実施方法について丁寧な説明を心がけた。後半では、人権にかかわる基本的な内容について、分かりやすい解説を心がけ、第 2 回以降の授業の理解へとつながるように配慮した。

(2)その他の教育活動

内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	【 本】
③その他論文（査読なし）	【 本】
④学会発表等	【 件】
⑤その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	

5. 地域・社会貢献活動

①国・地方公共団体等の委員会・審議会

福井県人権施策推進審議会委員、人権施策の推進のための基本方針の調査審議および人権施策の実施状況に関する調査審議、H16～現在に至る

福井県公害審査会委員、公害に係る紛争についての斡旋・調停・仲裁、H19～現在に至る

福井県社会福祉審議会委員、社会福祉に関する事項の調査・審議、H22.4～現在に至る

福井市男女共同参画審議会委員、基本計画及び男女共同参画の推進に関する重要事項についての調査・審議、H22～現在に至る

福井県労働委員会委員（公益委員）、不当労働行為の審査、労働争議の調整、個別的労使紛争のあっせん等、H26.5～R2.5

福井県立歴史博物館運営協議会委員、福井県立歴史博物館の運営の審議、H26～現在に至る

福井県公益認定等委員会委員、新規設立法人に係る公益認定等に関する知事からの諮問に対する答申等、H27～R2.3

福井県私立学校審議会委員、私立学校・私立専修学校・私立各種学校に関する重要事項について知事に建議、R1.12～現在に至る

③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加

公益財団法人・ふくい女性財団 評議員、定時評議員会（事業報告、事業計画、予算、収支決算等の審議）への出席、H24～R2.6

⑦その他

越前市生涯学習センター主催、越前まなぼう座・地域サポーター講座（「子どもの放課後活動」と「地域コミュニティ」）講師、越前市生涯学習センター e ホール、R2 年 2 月 20 日

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

教育研究委員会・FD 部会（教育学習支援チーム） H30.4～現在に至る

教育研究委員会・大学連携・地域志向科目部会（COC） H30.4～現在に至る

学術教養センター内委員会・予算委員会 H30.4～現在に至る

(3)学内行事への参加

(4)その他、自発的活動など